

高岡ロータリークラブ

会長／牧野 明 幹事／坪田 伊歩

UNITE
FOR
GOOD

2025/10/9

No.14

例会日：木曜日 12:30～13:30 創立：1951/11/15 チャーターナイト：1952/4/15 創立順位：No.68

司 会 安田 会場監督 点 鐘 牧野 会長
国歌斉唱
ビジター

■佐山義幸様（京都南 RC）



会長挨拶／報告

■誕生祝

林 昌志 さん（10/11・48才）
板谷 聡 さん（10/13・70才）
大越 則夫 さん（10/14・59才）
永田 義邦 さん（10/19・87才）
菅野 克志 さん（10/21・60才）

幹事報告

■10月のローターレート 1\$ = 149円（9月 147円）

■次週 10/16 例会は 10/13 に変更

*第2回親睦ゴルフ大会

⇒小杉カントリークラブ 東⇒南 8:44 スタート

送迎 D パーキング高岡駅前第二駐車場

（高岡駅南口）7:30 出発

*女性の旅行⇒HN オータニ高岡 11:00 出発

*パートナー同伴夜間例会

⇒HN オータニ高岡 17:30 出発

■10/4 呉羽同好会…成績

< ニコニコBOX 14件 40,000円 >

佐伯様／ふるさと高岡のロータリークラブ例会に出席
することができ大変嬉しいです。本日はよろしくお
願いします。

牧野会長／立野会員、卓話楽しみにしています。

中野副会長／立野さん、本日はよろしく願いします。

坪田幹事／立野さん、本日卓話お願いします。

山本（毅）君／大変喜ばしいことが3つもありました。

一つ目は高市早苗さんが自民党総裁に選任され、臨
時国会で初の女性総理大臣に選任されることです。
国民のために働いて働いて働いてくれると思いま
す。二つ目は、過剰な免疫反応を抑える制御性 T 細
胞を発見した坂口志文大阪大学教授のノーベル生

理学・医学賞の受賞です。三つ目は、多孔性金属材
料を発明した北川進京都大学教授のノーベル化学
賞の受賞です。北川教授は空気中の二酸化炭素から
メタノールを製造する研究をしておられ、成功する
と石油を輸入する必要がなくなるそうです。

永田君／この度、金屋町から譲渡受けた公民館の屋上
にあった「励みの鐘」に 堀元市長の揮があったこと
や、利長公の「かぶと」をモチーフとした屋根があ
り、歴史的な価値があることから、跡地に再設置す
ることにしました。このことが、各社新聞に報道さ
れ、これからも多くの人に親しんでほしいと思いま
す。また、誕生日祝いをいただきまして。

松原君／本日講師、北日本新聞西部本社代表の立野貢
史栄氏迎え。1995 年～98 年にかけて日経新聞と共
に、当時北陸最大のイオン SC 誘致のスクープ一
面トップ記事として書いていただいた。今日、人口
減少の高岡にとってスローガンである、新幹線乗降
増の「かがやき停車」を果たすべく「新産業創出と
国際事業」誘致の 5 年スパンを人生最後の務めと
思い、改めて当時の御礼と本日のお話を楽しみにし
ています。

室崎君／先週土曜日の呉羽同好会、二年ぶりの開催で
私自身 3 ヶ月半ぶりのゴルフでしたがハンディー
に恵まれ優勝してしまいました。配慮の行き届いた
駒井会員に感謝。ところが良いことは続かず、昨日
の北陸銀行高岡支店のコンペでは腰痛で途中リタ
イヤ、同伴の永田さんのお元氣なプレーぶりに圧倒
されていました。

鞍野君／11 月 2 日（日曜日）～3 日（月曜日）1泊2
日で五箇山方面への紅葉ハイキングを企画しまし
た。メンバー各位のご参加お待ちしております。行先は桂
湖、菅沼合掌造り集落、三方岩岳。宿泊先は五箇山
赤尾館。桂湖畔でのバーベキュー、白川郷西方三方
岩岳での紅葉狩りなど楽しい企画もありますので
ぜひご参加ください。ご家族の方も大歓迎です。

追記：熊情報の確認とその対策をして実施します。

板谷君／誕生祝い、ありがとうございます。古希です！

菅野君／誕生祝い、ありがとうございます。

林（昌）君／誕生祝、ありがとうございます。

中川君／本日も多くのニコ BOX ありがとうございます。
月に一度はニコ BOX よろしく願いします。

卓話

「先達の言葉に学ぶ

経済人・政治家の取材から」

立野貢史会員

37年の新聞社勤務で30年記者業務にあたった。経済、政治関連が長く、出会った経済人、政治家が発する言葉は、信念があふれ、会社、社員を励まし、業務や生活へのヒントとなると感じた。3つの時代で、印象に残る言葉やエピソードを紹介する。

◇高岡支社時代

2001年度から3カ年、高岡支社編集部次長として経済記者を務めた。三協アルミ創業者の竹平政太郎さんが発した言葉が印象的だ。亡くなった際、竹平さんの生涯、経営哲学を記した弊紙の連載「無私大道―竹平政太郎の軌跡」（執筆・青野豊作、ダイヤモンド社から単行本）に書かれた言葉などを参考に、我々は関係者に取材し、追悼特集面をつくった。▽社内の人たちには驚くほど大きな声で叱ったが、愛情表現と育て方、鍛え方だった。

・「まじめちゃ何や」（元三協アルミ専務の大川健二さんの印象に残る言葉）

入社して間もなく、先に入社した親友が大川さんを「大変まじめでして」と紹介した時に、2人はこう一喝された。大川さんによると、まじめと言われるのは子供のうちだけで、大人なら当たり前、特長ではないという竹平さんの哲学だった。まじめより、「何ができるかが重要だ」ということを教わったそうだ。

・「おまえ、首だ」（元常務の上杉武吉さん）

竹平さんにこう言われた人がいたが、解雇された人はいなかった。竹平流の愛情表現で、一喝した相手の目を心配そうに見ており、親父のようなまなざしだったそうだ。

▽社外の人々の心を引きつける言葉を発し、高岡をアルミ産業の一大産地に成長させた。

・「新しいアルミの会社をつくり、高岡を発展させたい。樹脂部品をつかって協力してもらえないだろうか」（大木樹脂工業の大木隆さん）

大木さんは、竹平さんの熱心な誘いに二つ返事で応え、「地元の人と一緒に仕事をしたい」という語り口は忘れられなかった。地域のために働く場をつくる。竹平さんの根底にあった信念だった。

・「自分はもうけようとは思っていない。私はアルミにほれている。アルミを郷土の産業にしたい」（アリタの在田保三さん）

アリタは1960（昭和35）年、当時業界最大手メーカーと結んだばかりの代理店契約を解消し、三協アルミのサッシ販売代理店県内第1号になった。保三さんは竹平さんの信念に感動した。長男の吉保さんは「竹平さんは周りの人を一生懸命にする人だったと聞いている。だから父も一緒にやろうと思った」と懐かしんだ。

・「高岡の経済界を背負っていく若手を育てよう」（キタムラ機械の北村耕一郎さん）

「竹平さんは人づくりに心を砕いていた」（北村さん）。竹平さんの声掛けで発足した企業人の勉強会「高岡憂楽会」の幹事長も務めた。「『みんなの企業が元気になれば、高岡が元気になる』と激励され、アルミ産地への夢を語っていたのが思い出される」。

▽業務以外での付き合いのある人には、いつも優しいことばを投げかけた。

・「いつもありがとうね」（高岡ホテルの深田花子さんから）

竹平さんは料理旅館・高岡ホテル先代女将の深田花代さんと夫の庄吉さんと親交があり、ひいきにしていた。三協アルミ設立時に事務所代わりにも使わせてもらった。花子さんによると、「お酒を飲んでくつろいでも、決して偉ぶらなかった。『いつもありがとうね』と声を掛け、笑顔を絶やさなかった。人を引きつける魅力的な人だった」。

竹平さんの言葉には、厳しい指導、叱責を含んでいたが、仕事へのモチベーションや成長に大きな影響を与える力があつた。魅力的な考えを持ち、カリスマ性もあつた。地元を愛する、恩返しをする、そんな精神もあふれていた。

◇経済部時代

▽12年度から4カ年の経済部長として弊紙で連載「経済人 わたしの一言」を企画した。5年間、隔週火曜日に掲載した100回シリーズ。経済人の造語、好きな言葉とそのエピソードをまとめた。3人の言葉を紹介する。

・「デンノッホ～それでもなお」（北陸銀行の高木繁雄さん）

連載の初回。高木さんが学生時代に出合った、マックス・ウェーバーの『職業としての政治』の締め言葉。日本語訳は「それでも、なお」「それにもかかわらず」。苦しい時、もう打つ手はないと思いたくなくても「それでも、なお」と努力できるかが重要で、銀行再建時や頭取になっても支えにできた。う人も多数になり、さまざまなことが吸収できた。

・「かきくけこ」(ユニゾンの梅田ひろ美さん)

生きる上で重要なエッセンスが凝縮されている5文字。「か」は感動・感謝、「き」は希望・気力。「く」は工夫、「け」は健康、最後の「こ」は恋を表す。恋は異性だけでなく、物や仕事に対する情熱も含む。

「社会人として生きていくためには、どの要素が欠けてもいけない」。誰かがこう解説しているのをふと耳にした。社員にも紹介している。

◇東京支社時代

06年度からの東京支社編集部の部次長、部長時代に綿貫民輔さんを担当し、政治の理念である「ふるさとが良くなれば日本が良くなる。日本が良くなればふるさとが良くなる」が印象に残る。

綿貫さんの政治家を志すきっかけは雪の克服。米国視察では機械を使った道路除雪に驚き、スコップの人海戦術だった日本を変えなければと思った。議員として交通網の整備に力を注ぎ、地方を活性化に取り組んだ。

地方は国の「根っこ」。根っこに栄養をやらないと国の幹が太るわけではない。国の将来を左右する天下の大事には大局的な観点から大なたをふるい、ふるさとの要望など地方の課題に対して、かみそりでひげをそるようにきめ細かい対応をしてきた。

国と地方をともに発展させる考えを貫き、実行したその例が二つ。1987年国土庁長官時代、第4次全国総合開発計画を策定する際、能登半島から愛知県まで赤鉛筆で線を引き、これが東海北陸、能越自動車道になった。帆船海王丸誘致の際も、富山県(富山新港)と大阪市との交渉で5年ごとの展示とし、先に富山となった。その後大阪市が断念し、恒久的に富山新港での展示となった。

今回、紹介した言葉には、人柄がにじみ出ており、経験、苦労が読み取れる。人の歩む道に大きな影響を与えた。前向きで成功例となる言葉を挙げたが、時代の状況に合わせて柔軟に解釈し、応用することが大切だ。経営そして政治のリーダーは、確固たる信念を持ち、表現する言葉を備えるべきだろう。ただ、人間力を磨かねば、生きてこない。

参考文献 北日本新聞、青野豊作『無私大道―竹平政太郎の軌跡』(ダイヤモンド社)、綿貫民輔『わが半生の記』(北日本新聞社)

本日のプログラム

～パートナー同伴夜間懇親会～



第2回親睦ゴルフ大会

優勝 山口 洋祐 会員
2位 中沖 雄 会員
3位 室崎 靖 会員



第3527回 2025/10/13(月・祝)

司会 安田 会場監督 点 鐘 牧野 会長

場所：小杉カントリー

ゲスト：米山学友バタラチ アマルバヤスガラント君
米山奨学生マリク、アイシャさん ご家族